



## 1. ベトナム南米山学友会 創立記念式典開催

3月10日、10番目の海外米山学友会として発足したベトナム南米山学友会の創立記念式典【会長：ホーライフーン



さん(1973-75/桐生西RC)が、ホーチミンにて開催されました。式典当日、当会からは若林紀男理事長、滝澤功治副理事長、相澤光春副理事長、駒井英基常務理事に加え、日本からも40人以上のロータリー会員が出席。その他、韓国、中国、モンゴル、タイ出身の米山学友も多数出席しました。また、在ホーチミン日本国総領事館の古舘誠幾首席領事が出席し、この記念すべき日を祝うために会場に集結した人数は約140人となりました。ベトナム南米山学友会は2015年から米山学友グループとして、背中に「超私の奉仕」の文字を刻むオリジナルシャツを身にまとい、児童・障がい者・高齢者のための福祉施設への慰問など、日本のRCと連携しながら多

数の奉仕活動を行っています。式典内では、これまでに学友会活動をサポートしてきたRCへ感謝状が贈呈されました。

さらに、学友会が支援している児童養護施設の子どもたちが登場し、たくさん練習した、というダンスを披露。出席者からは温かい拍手が送られました。その他、レクリエーションや参加者全員による「手に手つないで」の合唱など、会場は熱気に包まれました。



## 2. タイ米山学友会 総会開催

2月25日、タイ米山学友会の総会がバンコク市内で開催されました。

総会はワラウト ブンロッド会長(1995-97/福岡東南RC)の挨拶に続き、今年1月に発生した能登半島地震で亡くなられた方々への黙とうが行われました。その後、財務報告、活動報告が行われ、2021年に医療機器寄贈を行ったワットプレーン病院への再訪問と近況報告会の開催、昨年8月に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」への参加などが紹介されました。

また、ワラウト会長の後任となる次年度会

長選挙が行われ、現在副会長を務めるペチニンナレスさん(1994-96/越谷RC)が会長となることが決定。次年度から新たな体制で学友会活動をスタートさせます。



### 3. 2024 学年度奨学生採用とオリエンテーション開催

2024 学年度の奨学生は 932 人となりました。新規採用者 634 人、継続者 298 人です（4 月 1 日現在）。国・地域別では、中国 40.6%、ベトナム 14.6%、韓国 12.9%、インドネシア 4.6%、マレーシア、モンゴルが同率で 3.0%の順です。プログラム別では、学部・修士・博士課程奨学金が 875 人（学部 421 人、修士 263 人、博士 191 人）、地区奨励奨学金が 23 人、クラブ支援奨学金が 8 人、海外学友会推薦奨学金が 1 人、海外

応募者対象奨学金が 25 人となっています。

4 月末までに新規採用者に対して各地区でオリエンテーションが開催されます。オリエンテーションは、奨学生とカウンセラーが出会い、奨学生としての義務やロータリーについて理解してもらう場です。確約書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。どうぞ温かく、新たな奨学生をお迎えください。

### 4. 寄付金速報 — 今年度も残り 2 か月半 —

前年同期比

+ 1.8%

普 - 1.4% 特 + 3.3%

3 月末までの寄付金は前年同期と比べて 1.8%増（普通寄付金：1.4%減、特別寄付金：3.3%増）、約 2,110 万円の増加となりました。

ロータリー会員の皆さまからのご支援に厚く御礼申し上げます。今年度も残り 2 か月半ほどとなりました。4 月以降は新規奨学生に関する行事も増加しますので、引き続き米山記念奨学事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

### 5. 3 クラブ合同例会 主役は米山学友

3 月 13 日、東京浅草 RC・東京上野 RC・東京浅草中央 RC による「3 クラブ合同例会」（主催：東京浅草 RC）が都内にて開催されました。今回の合同例会は“米山学友の活躍”にスポットを当てたもので、二部構成で開催されました。

第一部はアメリカ出身で、沖縄に住みながら「長寿」沖縄の食生活とライフスタイルを研究・発信するクリスタル バーネットさん（2017-18 / 那覇南 RC）の卓話が行われました。



卓話を行うクリスタルさん

「長寿の秘訣は、食べる物ではなく食べ方にあります。楽しんで食事をする。そして、生きる目的を持ち、ソーシャルコネクションを持ち続けること」であり、それらすべてが「ロータリーライフに通ずるものがある」と語り、会場を沸かせました。



米山学友 4 人によるパネルディスカッション

第二部では、クリスタルさんに加え、モンゴル出身のエンフボルド ガンエルデネさん（2014-15 / 東京江東 RC）、中国出身の崔立剛<sup>サイリツコウ</sup>さん（2008-09 / 青森 RC）、朱インイン<sup>シュ</sup>さん（2010-11 / 札幌東 RC）が登壇。4 人によるパネルディスカッションが行われ、「なぜ日本に残って働くのか」「東京で働く上での苦労」などについて、それぞれの体験談が披露されました。

今回のプログラムを立案した東京浅草 RC の田原績会長は、「今日、この日を心待ちにしながらも、参加が叶わなかった元地区米山奨学委員長であり、私の盟友でもある小森谷典明さんに良い報告ができそうです。ロータリー会員の皆さんに米山奨学事業について少しでも関心を持ち、日本に残って頑張る米山学友を応援していただければと思います」と、話しました。

## 6. 恩返しのボランティア活動

2月23日、関東在住で新疆ウイグル自治区出身の米山学友、イスカンダル アブドバリさん(2017-18/川越RC)、スライマン アボレケモさん(2019-20/坂戸RC)、スマイルジャン エメットさん(2017-19/金沢RC)、アハット アブリズさん(2017-19/久留米東RC)を含む20人のグループが石川県の七尾市と羽咋郡志賀町にてボランティア活動を行いました。

当日は2つのグループに分かれ、一組は羽咋郡志賀町でウイグル料理のポロやスープ250人分の提供、もう一組は七尾市の被災現場で復旧作業を行いました。現地では、他のボランティア参加者と協力しながら作業を行い、被災した方々からは感謝の言葉をたくさんもらったそうです。なお、共にボランティアに参加した20人全員が日本で仕事をしており、これまでの恩を少しでも返すことができれば、という思いで参加したそうです。

アブドバリさんは、アボレケモさん、エメットさん、アブリズさんと共に「NPO法人JUアカデミー基金」を設立し、理事長を務めています。優秀な日本在住のウイグル出身留学生および中央アジアからの私費留学生へ、奨学金の支給や学習サポートを行っており、これまでに16人を支援。また、経済的支援が必要な日本人小学生にも奨学金を付与することを決定し、今後実施していく予定とのこと。



羽咋郡志賀町で振る舞ったウイグル料理のポロ

## 7. スリランカカレーで心も身体も温かく

韓国出身で大宮北RC会長を務める米山学友、金福漢<sup>キム</sup>さん(1995-97/大宮北RC)が第2610地区穴水RCと協力し、能登半島地震の被災地でスリランカカレーの炊き出しや復旧ボランティアを行いました。



スリランカカレーを用意する金さん(左)

経緯として、穴水町にある福祉施設「精育園」から、全国の社会福祉施設に対して救援要請が出され、さいたま市でNPO法人 織の音アート・福祉協会「織の音工房」の代表を務める金さんが支援を決断したことが背景にあります。

3月21日に石川県入りした金さんは、共に現地入りした職員と翌日の炊き出しの準備と、スリランカカレーの仕込みを行いました。なお、このカレーは第2720地区 Japan O.K ロータリーEクラブ会員の米山学友で、共に第2代よねやま親善大使を務めたスチッタ グナセカラさん(2010-11/別府RC)が提供してくれたそう

です。22日に精育園に到着した金さん一行は、穴水RCの東四柳史明会長、鳥越豊子幹事、七海友也会長エレクト、舞谷繁ガバナー補佐と合流。前日から準備した、無農薬の野菜をたっぷり使い、ココナッツミルク

で辛味を抑えて作ったというスリランカカレーを振る舞い、精育園の入居者らと交流しました。23日も七尾市などで炊き出しや復旧ボランティアに参加するなど、精力的に活動を行った後、24日に埼玉へ戻ったそうです。

金さんは、「現地は復旧の遅れが深刻で、継続的支援の重要性を感じました。ボランティアに行けなくても、大きな支援はできなくても、被災者に心を馳せ、応援している方が多くいる、という事を伝えられて良かったと思います。被災された方々の『忘れられるのが一番怖い』という言葉が胸に刺さりました。これからも、できる支援を続けていきます」と、語りました。